

いざ飛び立て！ 「創造」の海原へ

株式会社向洋技研 相模原市中央区田名

「あ、本当に簡単！私でもできる！」

溶接の代表的な技法の一つである「スポット溶接」は、圧力を加え電流を流すことで発生した抵抗熱により、金属を部分的に溶融し接合させる技術。短時間で溶接でき、有毒ガスも発生させないエコな技術だ。ただ、「機械が重い」「手を挟む恐れがある」など、作業は常に危険と隣り合わせ。

そんなスポット溶接の世界で「誰でも・簡単・安心」な作業を可能にした溶接機「マイスポット」を開発し、革命を起こした会社がある。スポット溶接用機械を設計・製造・販売する向洋技研だ。創業以来、大海原に向かうパイオニア精神が脈打つ、同社の魅力に迫ってみよう。

製造業の"町医者"

一言で表現するならば…製造業の"町医者"！個々の顧客のニーズに丁寧に応えた商品開発を行い、顧客の夢・期待を実現する会社である。マイスポットは、まさにこの町医者の日々の仕事から生まれた賜物だ。

本田技研工業の子会社に勤めていた甲斐美利社長は、機械の設計などを行う事務所として向洋技研を創業した。しかし、1986年頃不況に見舞われ設計の仕事が激減。そんな時、コピー用紙の収納箱を生産する溶接機の依頼が舞い込む。「多品種少量生産できる溶接機がほしい。何とかならないか」。設計事務所ならではの斬新なアイデアを駆使し、試行錯誤の末、顧客のニーズに応えた製品の開発に見事成功—マイスポット誕生の瞬間だった。

その後、マイスポットの販売を開始し、トラックに乗せ、全国の町工場に「行商」に回った。当時、甲斐社長の心に浮かんでいたのは、本田技研工業の創業者、本田宗一郎氏の言葉だった。「どんなに優秀な設計者でも世界から設計だけの注文は来ないぞ、物をつくって世界に売ることだ」。本田時代に受けた薫陶を糧に、設計事務所から「モノづくり」も行う会社へと舵を切った。

そんな"町医者"の丹念な仕事は、今も健在だ。顧客の要望を受けると、品質会議を開き、設計・営業の壁なく会社が丸となって議論を重ねる。顧客の声を製品に反映させるためだ。常に世の中に必要とされる存在であり続ける—ゴールのない挑戦を、今も続けている。

職人機械「マイスポット」

精密板金加工に新風を吹き込んだマイスポット。そのヒットのカギは、「ガン」とよばれる、金属を加圧し電流を流すペン先のような器具にある。従来の一般的なスポット溶接機は、上下両方のガンが固定されていたため、溶接したいものをガンの位置まで持ち上げ、保持して作業しなければならなかった。

しかし、マイスポットの場合、上のガンは自由に操作できるうえ、下のガンの代わりにテーブルが設置されており、テーブルにのせてガンを移動させるだけで、安定した作業ができる。作業者の負担を激減させた画期的な機械なのだ。それだけではない。長年蓄積したデータをもとに、溶接の最適条件

をはじき出すシステム「Easy Setting」を搭載。材質・板厚をモニターで選び、ボタンを押すだけで溶接を可能にする職人の技術を持つ機械が、マイスポットなのだ。

そんな"職人機械"の活躍の場は広い。国内だけでなく海外にも出展している同社は、現在19カ国・24の代理店で事業を展開するグローバル企業。展示会で発表した製品は必ず売れるため、日本に持ち帰ってきたことがないそうだ。確かな技術力に裏打ちされたマイスポットは、その性能が世界で認められている。

会社とは、命の連鎖だ

会社とは、「命を養う糧を稼ぐところ」。甲斐社長は笑顔で語る。単なる働く場所、お金を稼ぐ場所ではない。社員がいて、その家族がいる。会社の隅々まで温かな雰囲気にあふれるのは、家族的な会社になりたいという甲斐社長の考えゆえであろう。「会社を経営するのに難しいことは要らない。一人ひとりが自分の役割を果たす」。会社は、これに尽きると言う。

人を採用し、何の事業を行い、どのような商品を提供して人々を幸せにするのか。それを熟慮し、運営資金を集める—これが社長の役割。その事業を責任持って実施・実行するのが社員の役割。そのうえで、各自が与えられた課題から新たなものを創造できる環境を会社が提供する。このゆるぎない信頼関係があるからこそ、会社は成長する。

「お前が好きだ」、これから仕事は始まるんです」。

次世代を担う、若者へのメッセージ

「Made in Japan、海外の人に良く言われるんですよね」と語る甲斐社長。若い人には、先人達が苦勞して築き上げた日本のブランド「Made in Japan」をもっと意識してほしいという思いを強く持っている。そのまなざしは、真剣だ。

世界中至る所で日本人がリーダーとして活躍している。「グローバルな舞台で、自分には何ができるか?」。自分自身に問いかけ、置かれた状況下で課題に丁寧に取り組む—これが次の一歩を踏み出す大きなカギになるという。そんな甲斐社長の夢とは? 「300年後、大きな会社になっていなくてもいいから、モノづくりがずっと続いてほしい」。相模原から帆を上げた小さな船は、これからも、大海原を航海し続ける。



企業からのメッセージ

やる気があれば何事も成就する、素晴らしい夢を共に実現しよう。
(株式会社向洋技研 甲斐美利)

株式会社向洋技研

所在地	相模原市中央区田名4020-4
代表者	甲斐 美利
資本金	2,000万円 創業 1976年
従業員数	30名
事業内容	テーブルスポット溶接機「MYS POT」 及び関連商品の設計・製造
電話(代表)	042(760)4306
ホームページ	http://www.koyogiken.co.jp/

担当 杉山友理恵